

東京

理科大学山口短期大学が旧小野田市に開校したのは1987年のことでした。以来、卒業生は約三千名を数え、市内外を問わず、優秀な人材を全国に輩出し続けています。充実した設備と優秀な教授陣がその功績を支えていることは言うまでもありません。(1995年4月に4年生大学山口東京理科大学に移行。)

市は2006年2月に包括的連携協定を結び、小学生を対象とした「ほんものの科学教室」の開催など、大学の知的資源の活用をすすめているところです。

一方で「大学のあるまちにしては、学生の姿をあまり見かけない」など、活発とは言えない市民との交流の現状を指摘する声もありました — 私自身も取材で何度か訪れるものの、学生と接することがほとんどなく、いつか彼ら取材をしてみたいという企画を温めていたところ、今回、大学側の協力を得て、6人の学生と意見交換する機会が実現しました。

大学生活のようす、将来の夢、そして市への提言など、彼らの本音が飛び出した座談会の様子を特集でお伝えします。人生のいちばん多感な時期を、ここ山陽小野田市で暮らすことを選び、自らの将来をしっかりと見据えながら、勉学に励む「理大生」の実像が垣間見えたような気がします。(文責：広報広聴課 和西)



▲窒素条件下で、溶液を調製する実験



▲セラミックス材料に関する文献調査



▲「ほんものの科学教室」で液晶について学ぶ小学生

理大アラカルト ①

包括的連携協定について

平成18年2月に市は山口東京理科大学と包括的連携協定を結び、地域の学校教育の振興、生涯学習に関することなどについて協力しあうことを約束しました。その一環として、小中学生を対象にした「ほんものの科学体験講座」(左写真)「図書館の相互利用」といった取組みがすでにはじまっています。平成20年度は学校の先生を対象とした「理科教員のためのリカレントセミナー」「小学校英語指導者養成講座」や「市民向けパソコン講座」、講演会の開催等を予定しています。